

令和2年度 第3学期 始業式式辞 令和3年1月7日(木)

明けましておめでとうございます。約二週間の冬季休業を経て、リモートではありますが、こうして元気で再会できたことに感謝したいと思います。昨年末には、30回を迎えた「“孫心”届け隊（まごころとどけたい）」の取組、「弓道部の全国大会出場」、「吹奏楽部の定期演奏会」などで皆さんの活躍を大変うれしく思いました。特に、感染症拡大の影響により昨年までの「孫心弁当宅配ボランティア活動」は実施できなくなりましたが、高齢者を敬う精神を引き継ぐために工夫された「“孫心”届け隊」の取組に関しては、お礼の手紙や電話もたくさんいただいております。よく頑張ってくれました。ありがとうございます。

しかし、今年は我慢の年末年始だったと思います。帰省できなかった家族もいるでしょう。初詣に出かけなかった人もいるでしょう。会いたい人に会えない、行きたいところに行けないことがどれほどつらいことなのか、痛いほどよくわかった年末年始でした。そして、私たちは一人で生きているのではないこともあらためてわかりました。これからも我慢すべきことはたくさんあるかもしれませんが、しかし、私たちが自分や周りの人を思いやる優しさをこれからも持ち続ければ、より良い日は必ず戻ってきます。私たちは再び友達に会うことができ、再び大切な家族と一緒に過ごすことができるでしょう。

私の第一の願いは、生徒のみなさんとその家族、教職員が健康であることです。そうであれば、危機的状況にある医療現場で懸命に頑張っている人たちに対して、特別な何かをするのではなくても、きっと大きな助けにもなるはずです。私たちが、健康であり続けることが誰かを思いやり、守ることになるのです。そう心に言い聞かせながら、いつも通りに消毒やマスクの着用をしっかりと行ってください。楽しい会話をしながらの食事は、大切な時間ですが、会話しながらの飲食は、新型コロナウイルス感染の最もリスクの高い場面です。飲食する場合は、対面で向かい合わないように注意し、食事しながらの会話は控えましょう。

さて、いよいよ2021年（令和3年）、本校百周年の年となりました。歴史が苦手な人もいるかもしれませんがしっかりと聞いてください。本校は大正9年（1920年）に津山町立津山商業学校として設立認可され、大正10年（1921年）5月14日に校舎落成式並びに開校式を挙行しました。その時の生徒定員は300名でした。その後、岡山県津山商業学校、岡山県津山拓殖学校、戦後昭和21年に岡山県津山商業学校に復帰、昭和23年に岡山県立津山商業高等学校、再編整備により岡山県立津山北園高等学校、昭和28年に現在の岡山県立津山商業高等学校となり、昭和40年には1,320名の生徒定員でした。

津山商業の歴史を紐解いていくと、戦争や災害など多くの困難を乗り越えてきたことがわかります。今、岡山県立津山商業が厳然としてここに存在するのは、地域から必要とされ、大切にされてきた歴史があるからだと理解できます。また、先輩方の学びに対する熱い思いや校是「自彊」に込められた願いも感じることができます。みなさんも先人の苦労の上に今の学びがあることを知っておいてください。そこには「感動」や「驚き」、「過去」と「現在」の比較による「未来」への展開、さらに「伝える」ことの重要性が見えてきます。そのことがわかれば、それをみなさんが主体的に「つなげていく」ことが、いかに大切なのかもわかるはずです。すべては、学ぼうとするみなさんの意思に係っているのです。

イギリスの歴史家E.H.カーは「歴史とは現在と過去との対話である。現在に生きる私たちは、過去を主体的にとらえることなしに未来への展望を立てることはできない。」と述べています。新型コロナウイルスの感染が拡大している今こそ私たちは歴史に学び、未来を切り拓いていく必要があります。ウイルスにしても歴史的に知っていれば、やるべきことも見えてきますし、冷静であることも可能だと思います。そういう意味でも、まず歴史を知ることは重要です。現在学んでいる津山商業や、暮らしている故郷の歴史にも興味を持ち、知り、伝え、「未来への道しるべ」を創り、大切な学校や故郷をみなさんが主体的につなげていってほしいと思います。百周年の年が、「歴史と対話し、未来を創る年」となることを願っています。

歴史つながりで言えば、私たち商業を学ぶものは、渋沢栄一も知っておいてもらいたい人物です。幕末から明治、大正、昭和と激動の時代を生き抜いた人で、500以上の多種多様な企業の設立に関わり、社会貢献活動にも積極的だった人物です。吉沢亮さん主演の今年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公で、また、2024年に発行予定の一万円札の肖像に採用されることにもなっています。みずほ銀行や地方銀行、東京証券取引所、帝国ホテル、津山ともなじみのあるキリンビールなどの多くの企業や、日本赤十字社、一橋大学、東京経済大学、同志社大学などの設立にも深く関与しました。

彼は著書「論語と算盤」で、「道德経済合一説」という理念を打ち出し、倫理と利益の両立を掲げ、「正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ。」と説いています。そこには母の教えであった「自分だけではなく皆を幸せに」という考えが根底にあったようです。私は今までの式辞で、「商業人はやはり誠実でなくてはならない。商業は信頼が第一。信頼を築くためには誠実でなければならない。当たり前のことですが、それがなかなか難しい。しかし、津山商業で学ぶ以上、常に正しく誠実で、周りの人のことを考えられる人間であってほしい。」と何回も述べています。渋沢栄一の「思いやりを持ち、常に何のために生きるのかを考え、逆境を生き抜き、変化を希望としてみせる生き方」は手本であり、コロナ禍の時代に生きる私たちに、多くの示唆を与えてくれるものです。現在は、感染症拡大の厳しい状況ではありますが、そういう時代であるからこそ津山商業が「幸せが生まれる場所、悩んでいる人の温かい居場所」であればいいと願っています。

最後に、私が今日の節目に思うことを伝えます。それは、今年も卒業式は、例年通りとはいかない難しい状況ではありますが、最高の式にしたいということです。大切なのは、津山商業に新たな歴史を残してくれた3年生を、全校生徒・全教職員で心からの祝福を持って送り出すこと、難しいといわれる厳粛な卒業式をみんなの手で作りに上げることです。そのためにも、3年生はもちろん、1・2年生も含め、最後の最後まで、一人ひとりが決して力を緩めることなく、自信と誇りを持って、学校生活を送ってくれることを願います。

寒さも本格的になってきました。体調には万全の注意を払ってください。今年が良い年となりますように。そして、君たち「倫理観を持った商業人がより良い未来を創る」ことを心より願っています。頑張りましょう。